

広 抛 第 1112 号
令和 4 年 7 月 7 日

内閣府地方創生推進事務局長
淡野 博久 様

大阪府知事 吉村 洋文



大阪市長 松井 一郎



都市再生緊急整備地域等を指定する政令及び地域整備方針について(申出)

都市再生特別措置法の規定により、都市再生緊急整備地域等を指定する政令の立案及び地域整備方針の内容となるべき事項について、別紙のとおり申出します。

別紙

【申出の理由】

新大阪駅周辺地域は、新幹線や広域幹線道路などの国土軸と、世界につながる関西国際空港から大阪の都心を通る都市軸が交わり、関西の各拠点を結ぶ広域交通の結節点となる新大阪駅を有する地域である。

国土において、スーパー・メガリージョンを形成するリニア中央新幹線をはじめ、北陸新幹線、大阪都市再生環状道路などの高速交通ネットワークの形成が進められている中、新大阪駅を中心に、近接する十三駅、淡路駅と一体となって新しいまちづくりを進めるために、国、大阪府、大阪市、経済団体、民間事業者等で構成する「新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会」を平成31（2019）年1月に立ち上げて、まちづくり方針の検討を行うとともに、民間都市開発のプロモーションを進めてきた。

同協議会での取組みを進める中で、新幹線新駅の位置の公表に先立って、新大阪駅エリアにおいて、そのエリア価値を高める民間都市開発（都市再生制度の活用）の機運が高まってきたこと等を踏まえて、令和4（2022）年6月に「新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域まちづくり方針2022」をとりまとめたところである。

本方針では、新大阪駅周辺地域において、広い圏域の人と人との交流を促進するとともに、異なる交通モードを効果的に結節し、世界につながる関西のゲートウェイとしてふさわしい都市の空間を兼ね備え、災害にも強い、日本の成長を支える国際的な都市拠点を形成し、広域交通ターミナルを核とした世界有数のまちづくりの実現をめざしていくこととした。

以上のことから、この方針の具体化に向けて、「新大阪駅エリア」におけるエリアの価値を高める民間都市開発を推進し、新たなまちづくりを進めるために、都市再生緊急整備地域の指定に係る申出を下記のとおり行うものである。

【地域の指定に係る事項】

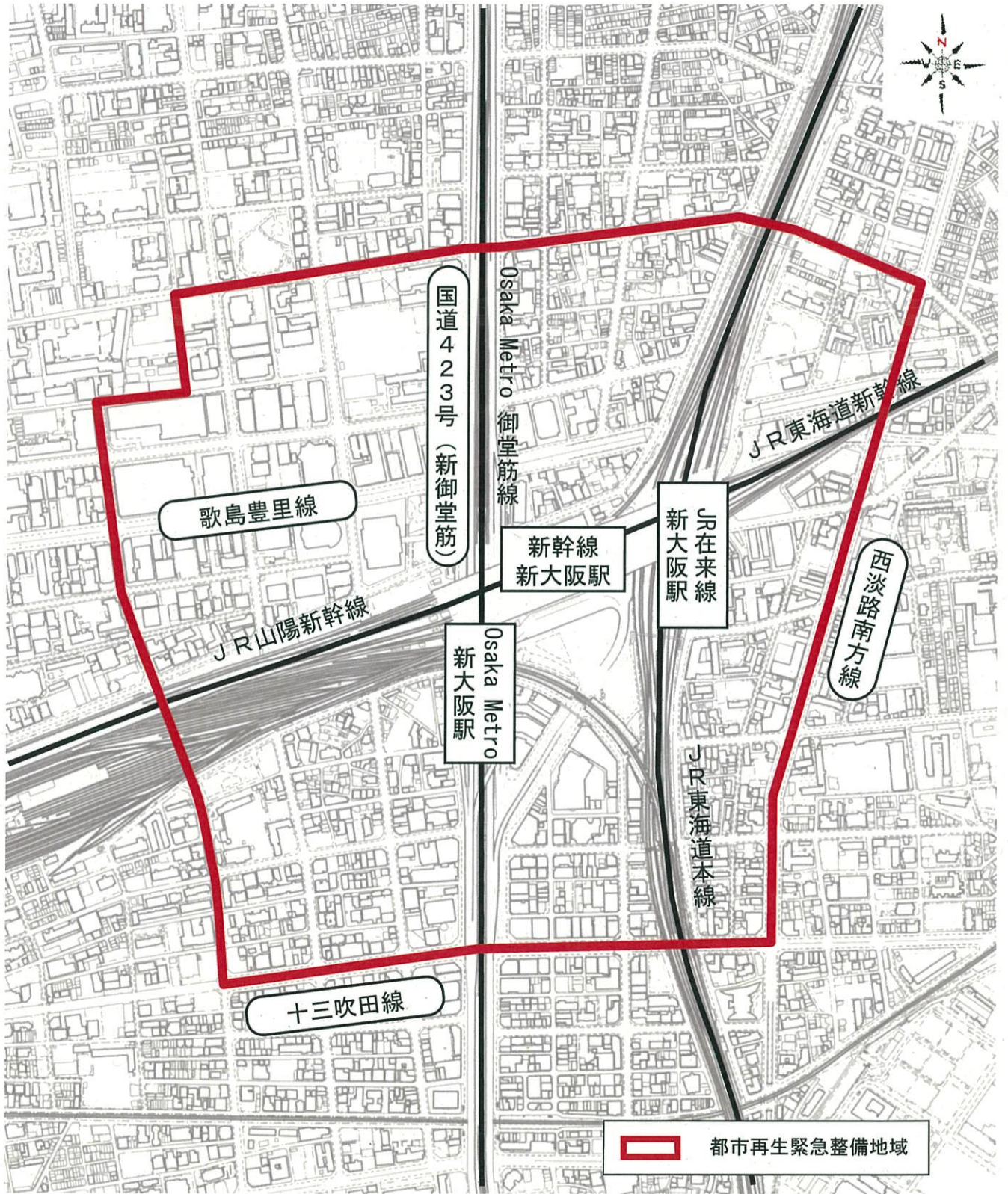
<都市再生緊急整備地域>

地域名	（仮称）新大阪駅周辺地域
区域	別添図面のとおり

<地域整備方針の案となるべき内容>

別表1のとおり

(仮称) 新大阪駅周辺地域 <114ha> (区域図)



都市再生緊急整備地域の地域整備方針の案の内容となるべき事項

(大阪市)

地域名称	整備の目標	都市開発事業を通じて増進すべき都市機能に関する事項	公共施設その他の公益的施設の整備に関する基本的事項	緊急かつ重点的な市街地の整備の推進に関し必要な事項
(仮称) 新大阪駅周辺地域	<p>〔都市再生緊急整備地域〕</p> <p>国土において、スーパー・メガリージョンを形成するリニア中央新幹線をはじめ、北陸新幹線、大阪都市再生環状道路などの高速交通ネットワークの形成が進む中、新幹線や広域幹線道路などの国土軸と、世界につながる関西国際空港から大阪の都心を通る都市軸が交わり、関西の各拠点を結ぶ広域交通の結節点である新大阪駅を中心に、近接する十三駅エリア及び淡路駅エリアと一体となって、広い圏域の人と人との交流を促進するとともに、異なる交通モードを効果的に結節し、世界につながる関西のゲートウェイとしてふさわしい都市の空間を兼ね備え、災害にも強い、日本の成長を支える国際的な都市拠点を形成し、広域交通ターミナルを核とした世界有数のまちづくりを実現</p>	<p>関西・日本・世界の広い圏域とつながる特性を活かして、人が集う拠点として、新しいビジネス・文化の創造、新技術の実証・導入、新たなライフスタイルの構築のために、駅を中心に交流促進機能、交通結節機能、都市空間機能の向上を図るとともに、都市開発事業と公共空間の活用を連携させ、居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グローバルな業務機能、高度で多様な業務機能、学術・研究機能、情報発信機能、スタートアップ支援機能、ハイクラスの宿泊機能、観光機能、文化・芸術機能、エンターテインメント機能、MICE 関連機能、これらをサポートする商業・居住機能などの導入を図り、質の高い機能が集積した複合市街地を形成 ○ 駅とまちを繋ぐ人の通行・滞留機能、多様な人が集う交流機能、緑、光、水などを取り入れたうるおいのある空間機能及び独自性の高い商業・文化などの機能の充実による魅力的な低層部の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉄道と道路とまちをつなぐ新大阪駅と駅南側の交通結節施設などにおいて、平常時・災害時に対応する歩行者の空間、自動車等交通（高速バス、端末交通）の空間、サービス空間の機能の向上 ○ ペDESTリアンデッキやグラウンドレベルの歩道などを組み合わせることで、新大阪駅とまちを繋ぐ重層的な放射状の歩行者ネットワークを強化し、都市開発事業と公共空間の活用を連携させ、居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成を図る ○ 鉄道事業者が中心となって検討を進める新大阪連絡線構想（新駅を含む）などにより、新大阪と十三を繋げ、大阪駅周辺・京阪神方面・関西国際空港方面との利便性の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都市開発の促進、MaaS や次世代モビリティなど新しい技術の実証・実装の促進、エリアの価値の持続的な維持・向上などのエリアマネジメントの推進 ○ 3D 都市モデルなどのデジタル空間などを活用した都市づくりの推進 ○ 災害時の帰宅困難者対策等の防災対策の推進

		<ul style="list-style-type: none">○ 建物全体及び低層部の空間の意匠や形態の工夫などによる質の高い都市景観の形成○ 駅の交通結節機能を補完するとともにエリア全体の回遊などを促進し、交通利便性向上に資する歩行者、自転車、自動車などの交通関連機能の向上○ 地震・水害時などにおける人の退避機能や雨水の貯留機能などの都市防災機能の向上○ 都市の環境負荷低減に資するエネルギー、緑などの都市環境機能の向上		
--	--	--	--	--